

令和3年6月16日

総長予定者の決定について（補足説明）

大阪大学総長選考会議議長

鈴木 直

令和3年5月25日に、大阪大学総長選考会議において決定した次期総長予定者の選考理由及び選考過程に関しては、同日付けで公表した「総長予定者の決定について」に記載しているところですが、下記のとおり補足説明いたします。

記

昨年度より、今回の総長選考をどのように行うか、会議を重ねながら慎重に検討してきました。総長選考会議では、透明性と公平性の観点から、「求められる総長像」を最も重要と考え、それらを基に15項目の評価指標を作成しました。さらに、学内意向調査の結果を評価にどのように反映させるかについても深い議論を行いました。

それらの検討・議論を経て、選考過程において、各委員は、①所信表明書、②総長選考会議による候補者の面接、③総長候補者による所信表明演説及びそれに対する学内構成員からの質疑応答、④学内意向調査の結果と⑤その直後に開催された総長選考会議での議論、の全てを踏まえ、最終的に各自で付けた15項目の評価指標に対する評価点の合計数が最も高い者に投票を行うこととしました。

5月25日（火）の意向調査結果判明後に開催された総長選考会議での議論を説明します。当該議論は、以下の点を中心に行いました。

- ・学内意向調査結果（各候補の得票数）について、その意味すること
- ・所信表明書等で提示されたビジョンや施策内容と、その実現性（財源確保の可能性等）
- ・大学経営に関する識見・実行力・指導力

当日の会議では、まず各候補に対する評価について、各委員が率直な意見を述べた上で、上記のような点を含め、様々な議論を行いました。

具体的には、各候補の所信表明書の内容、総長選考会議による面接と質疑応答、学内構成員対象の所信表明と質疑応答、意向調査結果、これら全てを通して明らかになった各候補の評価できる点と課題について真剣な議論を行いました。

これらの率直で真剣な議論を尽くした上で、最終的に各委員が、その職責の重さと社会からの期待を十分に理解したうえで、自身の見識と信念に従って、各自で付けた各評価指標に係る評価点の合計点の最も高い候補者に投票を行いました。その結果、投票の過半数を獲得した西尾候補を、総長選考会議は総長予定者として決定しました。

今般の総長選考会議による選考は、このようなプロセスに則って、本学の総長としてふさわしい人材を得るため、学内意向調査の結果を含む多面的な観点から、熟議を重ね行ったもので、公正に行われたものと考えます。

以上